

## 実践研修(現地検討)の概要

近畿中国ブロック

<b>講義等名</b>	トータルコストの縮減に向けた技術者としての在り方 (一貫作業・コンテナ苗・植栽本数・下刈り・獣害対策等)				
<b>研修場所</b>	新見市	<b>実施日</b>	10月19～21日	<b>該当する大目標</b>	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
<b>【研修のねらい・目標】</b>					
<p>戦後植栽された人工林が主伐期を迎え、バイオマス発電施設の稼働などを背景として、国産材の需要拡大が期待される。</p> <p>また、路網の整備や木材の安定供給を推進する一方で、循環的な木材利用に向け主伐後の再造林を低コストで実施することが重要な課題となっている。</p> <p>このため、伐採搬出～植付～保育作業及び苗木生産に加え獣害対策などを一連の作業システムと捉え、現地検討や意見交換を通じて、効率的な作業の仕組みを検討し、トータルコストの縮減に向けた実践的な指導・助言ができる技術者の育成を図る。</p>					
<b>【本研修の必要性】</b>					
<p>路網整備の推進や高性能林業機械の導入など伐採搬出に関する作業システムは効率化が図られつつあり、引き続き搬出間伐等の森林整備を行いつつ、木材需要に対応した主伐の増加が見込まれる。</p> <p>また、循環的な木材利用に向けては、伐採後の確実な再造林が重要である。</p> <p>しかしながら、苗木生産や植付・保育作業に加えシカの食害対策、森林所有者の意向など再造林に向けた課題は山積しており、これらの解決に向けては、最新の技術、優良事例の把握など、地域の伐採～保育作業の改善や工夫を検討し技術の研鑽に努めることで、森林所有者等に対する指導・助言を実施できる。</p>					
<b>【カリキュラムのポイント】</b>					
<b>【講義】</b>					
<p>①伐採から造林までの一貫作業システム(外部講師)</p> <p>②コンテナ苗生産技術・現状と課題(外部講師)</p> <p>③シカ被害を中心とした獣害被害防止対策(外部講師)</p> <p>④低コスト造林の取組に向けた背景とねらい(内部講師)</p> <p>⑤植栽本数低減事例紹介(内部講師)</p> <p>外部講師と内部講師が連携し、取組に至る背景や必要性、最新の事例紹介を行う。</p>					
<b>【グループ演習】</b>					
現地演習におけるトータルコストの縮減に向けた検討結果をもとに班内で共有・発表・全体討議・講評。					
<b>【現地演習】</b>					
コンテナ苗の活着・生育状況、下刈りの省力化試験地など班ごとに現地検討。					
<b>【意見交換】</b>					
トータルコストの縮減に向けた取組内容、成果等を共有・発表し、技術者(研修生)が描く戦略について意見交換。					
<b>【事前課題】</b>					
<b>【外部研修講師】</b>					
<p>奥田 史郎((独)森林総合研究所関西支所 森林生態系グループ長)</p> <p>長畑 州三(豊並樹苗生産組合 組合長)</p> <p>坂田 宏志((株)野生鳥獣対策連携センター 常務取締役)</p>					